

23. フジバカマ (キク科ヒヨドリバナ属)

Eupatorium japonicum Thunb.

2014年9月

河川の中州や堤防などに生育する多年草で、少群落をつくるようです。氾濫原の植物で洪水による攪乱があるようなところに生育します。茎は直立し高さ1~1.7m、下部は無毛で木質化し、上部は白毛を生じます。茎中部の葉は3深裂しますが、しない個体群もあります。上部葉は分裂しないものが多くあります。中央裂片は長楕円形または長楕円状披針形で長さ8~18cm、幅3~7cmでやや硬く光沢があります。同属のヒヨドリバナ (*Eupatorium chinense* L.) などとの大きな違いに、葉の裏面に腺点がないことです。花は8~9月に枝の先に散房状に多数つけます。総苞は長さ7~8mm、片は約10個で5個の小花があります。分布は本州(関東以西)、四国、九州、朝鮮、中国で、日本へは奈良時代以前に朝鮮を経て、または中国から伝来したと考えられています。兵庫県での記録は豊岡市から洲本市まで広域的に11箇所(福岡ほか：兵庫県産維管束植物8)が記録されています。植物園では加古川中州の個体を系統保存しています。本種は発芽率が高く、播種後1年内で開花するほど成長の速い植物で、生育と攪乱する環境に何らかの関係があるかもしれません。兵庫県版レッドデータブック2010のBランク、近畿版レッドデータブック2001のAランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストは削除されました(3次はNTランク)が希少な植物です。秋の七草のひとつで、古代から身近な植物のようで万葉集にも歌われ、親しまれたようです。乾燥すると全草に含むオルトクマリン酸が桜餅のようないい芳香を放ちます。中国では香草あるいは蘭草といい、香る植物の代名詞で、かつては衣服などの香り付けに用いられました。



フジバカマ



花序拡大



左：5個の小花
右：3深裂葉(白粉はうどんこ病)